

竹心会尺八演奏会

独り吹きのか



2024年3月10日(日) 14時~

すみだトリフォニー小ホール

ご挨拶

ご来場戴いた皆様並びに日々私達の活動を応援して下さいの方々演奏者一同心より御礼申し上げます。

私共の師横山勝也は同世代の尺八家と共に 1960 年代から始まった現代邦楽の主要な演奏者として活躍しました。

今日、豪州や米国のみならず永い伝統文化を持つヨーロッパや中国でも尺八の演奏家や愛好者が育っています。その種は師がノヴェンバー・ステップス（武満徹作曲）のソリストとして世界各地のオーケストラと共演し、現地の人々に尺八の魅力を知らしめたことにより蒔かれたと言って良いでしょう。

今でこそアニメを通して日本文化に対する関心が高まっていますが、かつては日本の伝統芸能を海外に紹介するイベントを開いても集客が望めず現地の日本人会に動員をかけるのに苦労したといったことを当時の文化庁長官から伺ったことがあります。

そのような中で師の蒔いた種がしっかりと根付いたのはオーケストラを楽しむために集まった聴衆の心に突然飛び込んできた尺八の音が衝撃的に深く刻み込まれたからではないでしょうか。

その力の源泉を辿ると、師が常に心掛けていた「尺八の主体性」への思い、具体的には海童道祖から伝承した古典本曲の研鑽・錬磨の成果であると思われまます。

「産安」といえば師の代表的なレパートリーの一つですが、30代の師が弟子の稽古の間にできた僅かな時間にも冒頭の 1 フレーズを何度も繰り返し工夫を重ねていた姿が印象に残っています。

今年は師の没後 14 年、直接師の指導が受けられなくなって長い歳月が経ちました。ある時師は「皆に同じように教えているんだけど皆受け取り方が違ってね。でも本曲ってそんな風にして伝わってきたんだろうね。」とおっしゃいました。しかしそれは自己流かつ安易に解釈して好き勝手に吹くことを容認するというのではなく各々が曲が求めているであろう理想の姿に向かって終わることのない修行を重ね、演奏する際には「これが今私のできる最大限の表現です」と言えるものを出し切れという想いが込められていたように思います。

本日は各々が師の「それが君が良いと思うものか」という問いに「はい」と答える覚悟で臨みたいと思います。

(岩橋 庸一)

プログラム

(眞玉門下)

- 1 **山越** 方 聖霖
初めての演奏会で緊張していますが、練習の成果を発揮できるよう、精一杯頑張ります。

(青山教室)

- 2 **鶴の巣籠り(奥州伝)** 伊藤 崇之
三曲演奏を中心に尺八をやっていましたが、独りで演奏する本曲に取り組みたく一念発起してNHK文化センター青山教室に通っています。古屋、眞玉、柿塚の各師が交互に講師をしていただくという最高のレッスン環境とその後の最強の反省環境を得ました(笑)。実力が伴って上がっているかはともかく、今回は鶴の巣籠を演奏させていただきます。

(眞玉門下)

- 3 **手向** 齋藤 太郎
長らく中断しておりました尺八ですが、50代後半より再開することが出来ました。そして還暦を迎え、この度の「独り吹き」の会へ挑戦させていただける機会をいただいたこと心よりありがたくおもいます。折しも、親しい友人。そして肉親の旅立ちを見送る機会が重なるここ数年でありました。思いがけない不慮の出来事で旅立つことになってしまった故人の無念のおもいへの手向として吹ききれればとおもいます。

(眞玉門下)

- 4 **下り葉** 佐藤 清弘
津軽に銀風流(根笹派)があります、その中に根笹調(乙音) 下り葉(甲音)調べがあります、いずれも コミ吹きと呼ばれる(フウフウ)と独特な息揺りが特徴で、強い北風が吹き抜ける時、笹藪の笹が風に逆らって、しなる音を表した息遣いがこの曲の特徴です。津軽藩主が大変に好んだ曲であり、津軽では御家流と称されていました。津軽出身の私はオハコにしたいと思いこの曲を選びました。

(青山教室)

- 5 **三谷** 伊藤 隆一
尺八を始めて14年、遅々として進歩の跡が見られませんが『継続は力なり』を信じてこれからも吹き続けます。『三谷』は最初の頃に教わった本曲です。最後まで吹き切れるよう頑張ります。

(眞玉門下)

- 6 **打波** 安達 隆二
打波は好きな曲で、様々な波を思いうかべながら吹いていますが、なかなか打ち寄せる波にならず、いつも苦勞しています。繰り返し打ち寄せる波を少しでも感じていただけるように吹きたいと思っています。

(青山教室)

7 心月 堀之内 光雄

縁あって青山教室でお世話になって 15 年ほどになるかと、教え甲斐のある生徒かと、ナカナカ思い通りにならず 息切れ 無音 異音 その他諸々 味わいと解釈いただければ幸いです。

(眞玉門下)

8 魔切(横山勝也作曲) ラメイ・アレック

海外でも大人気のアニメ「鬼滅の刃」は英語では「Demon Slayer」と訳されていますが、Demon Slayer を日本語に直訳すと「マキリ」になることも言えます。いつか、私の『マキリ』をアニメ好きな外国人の方々の前で披露する機会があれば嬉しいです。そんな気持ちを込めて、横山作曲の「マキリ」を演奏させていただきます。

(眞玉門下)

9 三谷 中村 秀剛

学生時代はフルート奏者としてソロやオーケストラで演奏していましたが、社会人になってから眞玉先生に会い、尺八の魅力と奥深さを知り、お稽古を続けております。ここ数年は尺八と向き合う時間を確保することにも苦労していますが、ステージでの演奏を目標に練習を重ねてきました。今の自分にできる精一杯を表現したいと思います。

(直門)

10 心月 伊藤 恵三

横山勝也先生を偲んで、心静かに吹きたいと思います。

休憩

(直門)

11 下り葉 岩橋 庸一

笹原を渡る風の音は大地の慟哭のようでもあり、春を待ちわびる生命を鼓舞するドラムの様でもある。北の原野を疾駆する駿馬へのエールを込めて。

(直門)

12 松巖軒鈴慕 大谷 康畝

自分の吹き方について、最近、気付いたことがあり、修正をしました。勝也先生から本人が欲していなければどんなアドバイスも身につかないといった旨の話をされたことがあります。その通りだと思います。いろいろとアドバイスをいただいたはずなのですが、本当にもったいないです。

(直門)

13 打波 高橋 響

このような元気いっぱい吹く曲を、三尺を越える長管で吹くのは私の力量では持て余すのではないかと思います。ですが好きな曲ですし、好きな長管です。精一杯頑張ります。

(直門)

14 **本調** 中越 勝則

原曲は、静岡県浜松市にあった虚無僧寺『普大寺』所伝の「調子」(または「調」とされ、吹奏上の技巧を極限まで抑えた簡素直観の調べ、いわば虚無僧尺八のエッセンスを凝縮した一曲。

『本調べの“本”は本音を吐くこと。曲を調べる気持ちも巧むことも捨てて、一意呼吸を管中に打ち込み、一息一息の沈着さを練ること、あたかも天空より飛来した風が藪竹にぶつかり、そのまま吹き抜けて跡形もなきがごとくに。』(「海童道祖」)

(眞玉門下)

15 **古伝巢籠** 白石

各地に伝承されている「鶴の巢籠り」の原形に近いものと考えられています。「きれ」よく、なおかつ味わい深く表現することが矛盾しない、何と難しい事か。

(眞玉門下)

16 **山谷** 岩松 敏和

日々仕事に追われ殺伐とした毎日を過ごしている中、唯一尺八の稽古時間が平穏な安らぎを与えてくれるはずなのですが、これが中々で、むしろストレスを誘発している感があります。本当に難しい!

限られた稽古時間の中で何とか自分なりの山谷を表現できたらと思っています。諸先生方の素晴らしい演奏を聴けることを楽しみにしております。

(直門)

17 **霊慕** 免出 隆行

師匠は『40代はこの曲にかけた』と云われました。私は辞世の曲にしたいと思います。

月草の 夢はかすみし 吹く霊慕 隆山

(直門)

18 **心月** 土屋 雅章

心月はとても好きな曲ですが、いまだに行方不明になったり、雑念の霧に覆われ、心の月がはっきりと見えずにおります。

(古屋門下)

19 **山越** 熊本 圭吾

曲の由来云々はさておき、勢いがあるコンパクトながら躍動感のある横山先生らしさが詰まったこの曲が好きです。好きなので暴走しがちな点は御容赦ください。

(直門)

20 **虚空** 竹内 一裕

習い始めた 20 代の初期、最初に演奏会で吹いた曲が虚空です。その当時から心に残る虚空の彼方に響く音を求めて、何も考えず、吹くことだけに没頭して、ただひたすらに吹きたい。

(柿塚門下)

21 古伝巢籠 Lindsay Dugan

横山先生のレッスンで最後の稽古で弾いた曲です。その時の横山先生のコメントは「間が死んでいる」でした。それから14年後の今、間は復活できてるかもしれない。

休憩

(直門)

22 Mahabodh (Stufen) (Jim Franklin, 2005) Jim Franklin
大悟り(階段)

I composed this piece in Bodh Gaya, India, the place of Buddha's enlightenment, in 2005. The title also refers to the poem 'Stufen', by Herman Hesse, which describes the gradual process of personal and spiritual growth.

この作品は、2005年に釈迦が悟りを開いた場所であるインドのブッダガヤで作曲しました。タイトルは、個人的かつ精神的な成長の段階的なプロセスを描いたヘルマン・ヘッセの詩「シュトゥーフェン」にも言及しています。

(眞玉門下)

23 松巖軒鈴慕 クリストファー・モリナ

四年間日本を離れましたので、この度言えないほど、久しぶりに国際尺八研修館の皆様と一緒に演奏できることを嬉しく思います。松巖軒鈴慕という本曲を吹くと、いつも心拍数が上がると思いますが、あまりにも「無念無想」となれば、何となく何回も同じフレーズを繰り返しながら道に迷ってしまうのではないかと心配いたします。

(直門)

24 虚空 佐々木 徹

虚空は一切無限の世界。最初の一音は虚空の彼方に消える如く、後半は何物にもとらわれずに吹き渡る風のごとく吹きたい。

(眞玉門下)

25 山越 劉 暢

「山越」は、九州地方に伝わった曲で、「薩慈」の一種と思われる。「薩憑」は、本来、北九州一帯の虚無僧が吹奏していた流しの曲を一まとめにした名称で、旋律には幾つものバリアンテがある。「九州鈴慕」や「阿字観」もその系統に属する。この曲には、「薩慈」を特色づける旋律型でもある「山越」の音型が含まれている。すなわち、あたかも谷を渡って一山を越えるが如く聞こえる音進行が随所に現れる。日常用語にも「山を越す」という表現がある。困難な仕事や、重症の病気などの場合、最大の難所を切り抜け、良い結果の兆しが見え始めた時に「山を越した」という。しかし、その兆しに楽観は許されない。油断は禁物である。同様に、この「山越」でも、厳しい修行の結果得られた安堵感に対して、「油断は禁物である」との戒めが込められていて、自己に対する厳しい精神統一が求められている。

(古屋門下)

26 **独奏尺八のための「孤響」(三木稔作曲)** 田畑 智史

長管でたっぷりと吹く曲で、好きな曲ですが自身の得意なタイプの曲ではありませんでしたので、この機会に取り組みました。すばらしい録音が多い曲ですが、自分なりの解釈や表現が出来ればと思います。

(石川門下)

27 **山谷** 小濱 明人

同名異曲が数多く存在する「サンヤ」の中でも、水墨画のような悠久の流れを感じさせる静かな曲。奥州の伝承と言われる。

(直門)

28 **息観** 柿塚 香

海童先生以前の伝承が不明な曲です。海童先生の作曲か、とも思えます。横山勝也先生は海童先生に入門して最初の曲は本調で2曲目が息観だったとおっしゃっていました。こんな難曲が2曲目か! ?と驚きました。それだけ基本に重きを置いた大事な曲だということかと思いません。心して吹かねばと、思いを新たにしています。

(直門)

29 **産安** 泉 武夫

若い頃NHKのドキュメンタリー番組「竹の響き」で横山先生の気迫に満ちた産安演奏に接したのが、尺八を始めることになった動機のひとつです。地無し管でなんとかこの曲を吹けるよう、研鑽を積んでおります。

(直門)

30 **雲井獅子** 素川 欣也

戯曲と呼ばれるもののひとつで、戯れる様に吹けたらいいな、と思っています。

(直門)

31 **浮雲** 古屋 輝夫

おうい雲よゆうゆうとばかにのんきそうじゃないかどこまでゆくんだ(山村暮鳥)。無始無終。とらわれず。

(直門)

32 **虚空** 眞玉 和司

800年の伝統を誇る名曲に76歳が臨みます。

終演

国際尺八研修館の講習会へのお誘い

尺八本曲は、楽譜と音源で独学することは可能ですが、拍子・音程・強弱等については、楽譜ではなく音源から確認することになります。しかし、音源から得られる内容には個人の力量により、大事な部分が抜け落ちてしまうことがあり、微妙なニュアンスの違い、演奏における留意点は聞かないと分からないことが多々あります。

以下の講習会では、横山勝也先生の直門の弟子から、また楽譜を横山先生と検討しながら作成した講師から直接指導を受けることができる貴重な機会です。

尺八本曲を学ぶ貴重な講習会となりますので、是非受講をご検討下さい。

1. 半日講習会

- 国際尺八研修館による尺八本曲の講習会を開催します。講習曲は、『山越』と『心月』です。
 - 尺八本曲を吹く為に必要な基本的な音出し・奏法・技法の講習もあります。
 - 会場：台東区生涯学習センター312 リハーサル室
(地下鉄日比谷線「入谷駅」徒歩8分)
 - 日程：2024年4月21日午後
 - 時間：13:15 受付、13:30 講習開始、16:45 講習終了
 - 講習曲：山越、心月
 - 参加費：10,000円(学生 7,000円)
楽譜別途
 - 楽譜：山越 500円、心月 500円
 - 講師：眞玉和司、古屋輝夫、柿塚香、今井祐介、他
- 申込方法：お名前、ご住所、電話番号、携帯番号、メールアドレス、購入希望楽譜とその種類(琴古流・都山流)
以上の項目を記して下記までお申込み下さい。
 - 申込先：
E-Mail: furuya108@yahoo.co.jp
〒130-0026
東京都墨田区両国 3-25-9-304
国際尺八研修館(東京事務所) 古屋輝夫

2. 宿泊講習会

- 会場：三峰神社 興雲閣
- 日程：2024年10月11日(金)～13日(日)
- 参加費：45,000円(学生 25,000円)
楽譜別途
- 講師：眞玉和司、古屋輝夫、柿塚香、今井祐介、他

詳細については、後日発表予定

皆様のご参加をお待ちしています。

横山勝也先生の伝えた尺八本曲に関心のある方は、こちらのサイトをご覧ください。
竹心会本曲研究会のサイトには「独り吹きのみ会」の動画を掲載しています。

国際尺八研修館

<http://www.ksk-shakuhachi.com>



竹心会本曲研究会

<https://chikushinkai.main.jp/>

